

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.48 - 2012年12月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオの宣教師の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん!

数週間前、日本でとても貴重な贈りものを頂きました。FMA会員の82歳のシスター・ローザが黙想会のあいだに、マリアの信仰の旅の全行程を絵に描いてくださいました。長さが4メートルにもなる巻物に、聖母の「おことばどおりになりますように」に始まり、使徒たちと共に聖霊降臨を待つ高間の情景までを描いています。この巻物は、私たちキリスト者の生活の土台を語ってくれます-信仰の旅の歩みを止めることは決してできません!

ベネディクト十六世が2007年にアメリカ大陸の教会に贈ったアパレシダ(ブラジル)の祭壇画の右の絵には、聖書の「聞く」場面が3つ、左の絵には「告げ知らせる」場面が3つそれぞれ描かれています。信仰を生きるダイナミズムは単純なものです。イエスに聞く(私のもとへ来なさい!)、そしてイエスによって遣わされる(行って告げ知らせなさい!)ことです。2012年の待降節の歩みの中、キリスト・イエスに向かってさらに開かれた心で生きるようにと、皆さんに呼びかけます。私たちはみ言葉と聖体のうちに、しかし若者たち、特にキリスト者でない若者たちのうちにもキリストと出会います。私たちのあかしと信仰の言葉を待つ若者たちのおかげで、神の国を告げるイエスの使命を、私たちはより十全に生きることができるのです!

Václav Clement

宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

サレジオの「信心会」と 宣教グループの体験を再発見する

イタリア語版のボレッティーノ・サレジアノ2012年11月号にパスカル・チャーベス神父は次のように書いています。「ドン・ボスコはほとんど本能的に、青少年の育成に『社会的な力づけ』、特に友人や仲間による支えが重要であると感じていました。若者は、呼吸する空気を必要とするように、友を必要とします。一緒にいる仲間、同輩のグループ、友だちのグループによっては、良い教育を受けた若者でさえ悪い影響を受けることがあります。ドン・ボスコはその温かな教育的本能をもって、若者たちのいちばん良いところを引き出すような、友人たちの集える『場』を創り出したのです。」

総長は次のように言っています。「社会的絆や友情は、若者を守る大切な要素です。人は、共に暮らす人々によって認められ、支持され、支えられ、温かく扱われるとき、満ち足ります。……『信心会』はこのような洞察から、若者のグループの独自の、実り豊かな体験として発展し、サレジオのパノラマの一部になりました。今日、そのカリスマはサレジオ青少年運動(SYM)に受け継がれています。SYMはすべての若者に差し出されている教育運動で、若者たちが自らの人間的成長、キリスト者としての成長の主体、主役となります。そして自分たちが暮らす地域と社会に影響を与え、地方教会に貢献することを目指します。」

サレジオ会が働くすべての場所の宣教グループが若者たちと教育司牧共同体の福音宣教への意識を再生させようと取り組んでいるのも、この理解のもとでのこと、キリストへの信仰の分かち合い、生活のあかし、キリスト者としての連帯を特に意識しながら、信仰と献身において前進することを目指しています。その結果、宣教グループは、信仰の熱意をよみがえらせ、サレジオ・カリスマに人々をひきつけます。それは「信仰の疲れを乗り越え、キリスト者であることの喜び、キリストを知り、キリストの教会の一員であるという内なる幸いに支えられている喜びを再発見する」(ベネディクト十六世)助けとなります。そのとき、新たな召命を生み出す熱意が呼び覚まされます。

キリストが、私たちのクリスマスの祝いの中心におられますように!

2013年 新年おめでとう!





神は惜しみなく与える人を祝福される

十代のころ青年会に参加しながら、宣教師たちの体験に耳を傾ける機会がたびたびありました。冒険や困難について語る彼らの話を聞きながら、私の中に司祭になり、異国でたくさんの若者に囲まれて働きたいという望みが芽生えました。もっと近くでご自分に従うようにという神の呼びかけを真剣に考えるようになったのは、そのときが初めてだったと思います。他方、司祭職に全面的に献身し、顔に喜びを輝かせている多くの司祭のあかしを目にしたことも、私が神に答える動機となりました。世界のさまざまな問題、特に若者の問題を見て、私は後に考えるようになりました。イエス・キリストが私のためにいのちを捧げてくださったなら、私も自分のいのちを他者のために、イエスの大きな愛への応えとして捧げたらどうだろうかと。

サレジオ会創立150周年にあたり、総長パスクアル・チャーベス神父は、各管区が一人ずつ宣教師を派遣するよう要請しました。私は修練期のときに宣教師の志望を申請していたので、自分の願いを管区長に再び伝えました。管区長は願いを聞いてくれました。

「メキシコは宣教師を必要としているよ。どうして宣教師として外に派遣されたいの?」と多くの方が私にたずねました。私は少しずつ発見したのです。信仰は境界線を設けずに生きなければならない、宣教の召命の賜物を神から頂いたなら、惜しみない広い心で応えなければならないことを。宣教師がほかの所へ出て行ったために空いた場所を、神はいつまでも空っぽのままにはされません。神は惜しみなく与える人を祝福されます。カルカットのマザー・テレサは言っています。「痛むまで与えなさい」。つまり、私たちの貧しさの中から与えるということです。私が宣教師になることによって、私の管区はそうしたのです。でもメキシコは、たくさんの宣教師を必要としています。多くの人々の無気力な信仰を目覚めさせ、恐れ、不安、霊的・物的貧しさのうちに暮らす多くの人々に希望をもたらすため。またイエスの・キリストの理想に情熱を抱く宣教師を必要としています。私たちの生活のあかしと、この神の召し出しを生きる喜びのあかしによって、神ご自身が私たちの若い人々のうちに、メキシコや世界中の貧しい人々のために働く召命を呼び起こしてくださると、私は心から信じています。

神はペルーで働くよう、私を呼んでくださいました。サレジオ会宣教師として、私は大きな喜びのうちにこの召命を生きています。ご自分の使命を異国の地で、ほかの若者たちと分かち合うように私を呼んでくださった神が、すぐ近くに共にいてくださるのを感じるからです。神は私のために大きな計画を供えておられ、私たちの母、扶助者マリアの助けによって、私は「はい」と答えたいと思っています。

若いサレジオ会員には次のように言いたいと思います。「神が宣教師として呼ばれたなら、躊躇せずに呼びかけに答えてください。神が豊かな祝福を送ってくださるのを見るでしょう。神には惜しみない心で答えてください、そうすれば喜びに満たされます!」



メキシコ出身、ペルーの宣教師
アルフォンソ・アバルカ・パトリシオ神父



サレジオ会の宣教の意向

アメリカ合衆国におけるラテン・アメリカ系移民のための事業

アメリカ大陸のサレジオ会が、地域として取り組む計画を立てるため、移民の現象について意識を高めますように。

アメリカ大陸全体にわたる移民の流れは、私たちの時代の最も重要なしるしの一つです。この20年のあいだに、その数は劇的に増加しています。統計によると、現在、アメリカ合衆国には約5千万人のラテン・アメリカ系移民があり、合衆国のカトリック共同体の7割を占めています。牧者の数が足りず、そのうち毎年約60万人が教会を離れてしまいます。アメリカ大陸の13管区が集った2011年のTeam Visitで、総長は、移民の現象への会員の意識を高め、この問題に対応する地域計画を立てるよう、各管区に呼びかけました。

